

平成19年6月1日から土砂災害警戒情報を発表します

□長野県と長野地方気象台が共同して発表する新たな防災情報です。大雨警報発表後も、雨が降り続き、土砂災害の発生する恐れが非常に高まったときに発表となります。

□住民の皆さんの避難準備、自主避難の判断材料となることを目的としています。

□長野県では、平成19年6月1日より運用を開始しました。

土砂災害が発生する前には、様々な前兆現象が見られます。何かおかしいと感じたら、周りの人と、直ちに、安全な避難を考えましょう。

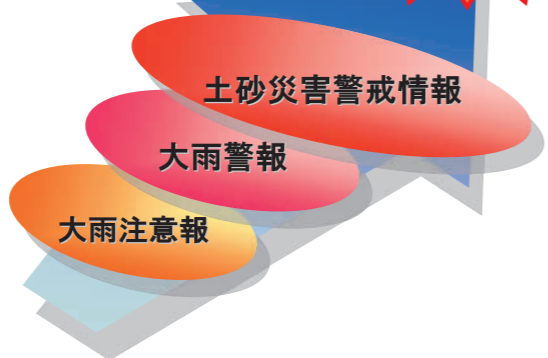
その際、

- ・降り続く雨の量に注意しましょう。
- ・テレビ・ラジオの気象情報に耳を傾けましょう。

□自分の家は、絶対に大丈夫などと思い込んだり、憶測やデマに惑わされることなく正しい情報を入手することが大切です。

問い合わせ先

長野県土木部砂防課 ☎026-235-7316
 長野地方気象台技術課 ☎026-232-2034



「土砂災害警戒情報」



●特集 みんなで防ごう 土砂災害

6月は「土砂災害防止月間」です。

土石流やがけ崩れ、地すべり等の土砂災害は、一瞬のうちに尊い命や貴重な財産を奪ってしまいます。

昨年の7月豪雨災害では、県内で記録的な大雨となり、諏訪地域では大規模な土砂崩れや、床上浸水などの被害が発生しました。特に岡谷市においては大規模な土石流が発生し、住宅を押し流し、8名の方の尊い命が奪われました。被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

原村では、河川や汐の氾濫による護岸の崩落、道路への土砂流出や家屋の床上浸水などの被害を始め、農業関係にも被害がでました。

これから梅雨の季節に入ります。梅雨時は長雨が続き、台風シーズンには短時間に狭い地域で多量の雨が降る集中豪雨が起りやすくなります。そのため、地すべりやがけ崩れによる土砂災害や、河川の氾濫による洪水の発生が心配されます。

- ①雨が降り続くとき
- ②強い雨のとき
- ③川の水やわき水が急に変化したり、濁りだしたとき
- ④土地に亀裂が入ったとき

などは、非常に危険です。そのような異常を発見し「危ないな」と思ったら、そこに近づかないようにし、避難するにも役場(☎79・2111)、又は原消防

署(☎79・2442)へ連絡をお願いします。

長野県ホームページの「砂防情報スナクション」
<http://133.105.11.45/index.html>

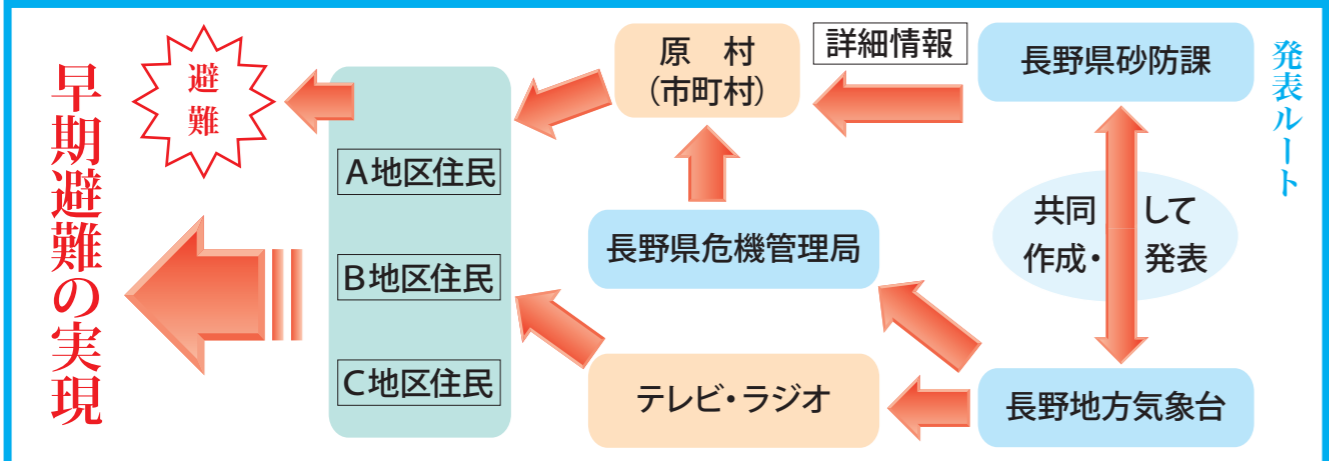
※各電話会社ごとのアドレスは次のとおりです。登録しておくことと便利です。

- iモード用<http://133.105.11.45/i/>
- SoftBank用<http://133.105.11.45/v/>
- Ezweb用<http://133.105.11.45/e/>

土砂災害情報や土砂災害に関する質問・相談は諏訪建設事務所内にある『土砂災害110番』窓口(☎57・2936)にお寄せ下さい。平日の午前8時30分～午後5時15分と、大雨注意報・警報発令中に利用できます。

「土砂災害防止月間」◇6月1日～30日◇

近年頻発する土石流、地すべり、がけ崩れ等の土砂災害による人命、財産の現状にかんがみ、土砂災害防止に対する理解と関心を深めるとともに、土砂災害に関する知識を広め警戒避難体制の促進等の運動を推進し、土砂災害による人命、財産の被害の防止を目的として実施されています。



災害に備えて

▼発生してしまった災害を、いかに小さい被害で食い止めるかは、皆さん自身の対応にかかっています。いざというときのために、日ごろから十分な備えをしておきましょう。

▼原村消防団では、5月20日、春季訓練を行い、大勢の団員が参加し、規律などの訓練に励みました。

水防訓練では、原村消防団の署員から水防工法の説明を受けた後、各分団に分かれて、川にあふれを防ぐ「積み土のう工法」と、堤防などの土が削り取られるのを防ぐ「木流し工法」を実践しました。

団長、村長とも、最近では川の流況が速くなっている、ということ訓練のほじめの話の中で強調していました。実際の現場ではこの日の訓練が活かされること



CONTENTS

■みんなで防ごう土砂災害	2-3
■法政大学・原村の連携による地域づくり事業	4-5
■村づくり通信	6
■くらしの情報	7-9
■行政情報	10-11
■むらのかかりつけ医・村長のほっとコラム	11
■保健・福祉の掲示板	12-13
■くらしのガイド	13
■はらむらとびっくす	14-15
■はじめまして1才6ヶ月です	16



●表紙写真/阿久から弘沢へ上る道の沿道では、5月に挿木作業が行われた芝桜の花が咲き誇り、その先では新緑の八ヶ岳が春の季節を堪能させてくれます。この時期(5月)、風や緑も気持ちがいいものですが、夜、見上げる星空も小さい星までよく見えてとっても綺麗なんですよ。

法政大学・原村の連携による地域づくり事業



『はらむら物語り』のホームページ、パンフレットが完成!



～10月28日 極限の大地 - 南極の素顔 -
 ～5月14日 こいでやすこ絵本原画展
 4月28日 山口みゆる ニット展
 4月29日 墨で図象文字を書いてみよう!
 5月3日 高原の工房市 inハッペ岳農場
 5月13日 巻紙に書いてみよう!

私だけの旅プラン
 ふれあいコースづくり
 見学・体験・宿泊などのオリジナルなプランを自由に作成できます。

会員募集中!!
 原村ファン倶楽部

原村公式ホームページ

【ホームページ&パンフレットによる情報発信】
 学生との検討・協議の中で、原村の地域資源を
 【楽】 体験・交流の
 できる工房など
 【食】 食事処
 【泊】 宿泊施設

この3つの要素にまとめ、特に今まであまり知られていなかった「楽」と「食」にスポットライトを当て、魅力ある資源を紹介することで原村全体としての魅力を高め、地域経済の循環と滞在型観光の推進を図ろうとしたのです。

このような基本的な考えから、学生が自ら現地に赴いて行なった取材に基づいて「食」28件、「楽」50件について各店舗や工房を紹介するとともに、「泊」73件についてもPRする「はらむら物語り」というホームページとパンフレットが完成しました。

学生が実際に店舗や工房を訪れた取材での感性が素直に表現されており、斬新で新鮮な感覚を味わうことができ、見た者の興味を引くページに仕上がっています。また、各店舗や工房、宿泊施設などが一覧できるマップを入れ、村内でのんびりゆつくりと周遊して体験・交流が図られるよう配慮されていて、たいへん便利です。



【シンポジウムの開催】

11月26日(日)
 「原村・法政大学
 まちづくりシン
 ポジウム」を開
 催しました。こ
 のシンポジウム
 では「住民と住
 民の連携」を
 テーマに、若者の
 目線で見えた原村の課題や、原村らしさを
 大切にしたい村づくりの進め方についての
 アイデアや提案がなされるとともに、住
 民が参加した初めてのパネルディスカッ
 ションが開催されるなど、大学の英知と
 若者の発想を村づくりに生かし、地域力
 を高めていく新しい「しくみ」づくりが始
 まりました。



【事業協定に関する協定】
 昨年8月下旬、原村は法政大学と「事業協定に関する協定」を締結して、村の抱える課題の解決と村の活性化について協力して取り組むことになりました。

現在のような社会の大きな変革期にあつて、美しく住み良い原村が、さらに魅力あふれる村として引き続き発展していくために、大学という研究機関の英知と若者の発想・アイデアを村づくりに生かし、「地域力」を高めていこうと考えています。

【地域ブランドの確立】

大学の指導のもとで、経済学部と社会学部の2つのゼミの学生60名が「原村の輝く宝石発掘探検隊」を編成し、8月下旬・9月中旬・11月上旬の3回にわたって原村を訪れ、村づくりの事例研究をしたり、住民のみなさん宅を訪問したりして、創作活動をしている方や農業関係の方、食事処などの取材を行い、その件数は80件に上りました。



○教授や学生からの提案・アイデア

- ① 原村ブランドの創設と普及のため「アンテナショップ」出店
- ② 日本一の生産を誇るセロリーの統一パッケージの作成
- ③ アート村としての活性化構想
- ④ 新たな公共交通システムの導入など



【大学との連携による地域づくり事業】

この大学との連携事業は、(財)ふるさと財団の助成金事業として、全国で多数の応募があつた中から24箇所選ばれた内の1つとして採択され、事業費の3分の2を財団が助成してくれたため、村負担は事業費全体の3分の1で実施することができました。

調査に当たった法政大学社会学部4年の谷田貝君は、「まだ今年の活動はスタート地点に立ったばかり。取材して原村が大好きになったので、多くのみなさんに原村のすばらしさをPRしたいし、僕の第2の故郷としたい」と熱く語ってくれていました。

【これからの大学連携】

◆大学とのかかわり

【隠れた魅力に光を当てる】
 今回の調査を通して学生が着目した原村の特色は、人口7700人ぐらゐの小さな村に、農業従事者、クラフトマン、飲食店など素晴らしい資源が驚くほどたくさんあるということ。しかしながら、それが地元住民をはじめとして観光客のみなさんにも知られていないということです。



これから村の経済を活性化していくには、そのような素晴らしい地域資源がたくさんあることを知ってもらい、地域内循環の経済活動に結び付けていくことが非常に大切だという結論になりました。



◆シンポジウムにおける学生の提案、アイデアについて検討や実証点検などを行ない、住民のみなさんの参画を頂いて、その効果と実現の可能性などを探っていく予定です。

◆大学との連携の中で農業、観光、工業サービス業、森林などさまざまな産業や資源をさらに関連・連携させ、住民が主体となる村内循環型の経済を検討していきます。

◆住民のみなさんが東京に行つて大学祭などに参加し、原村をPRしたり交流する機会を設ける予定です。

◆住民どうしの連携
 今後は住民どうしの協力と連携によりネットワークづくりを行い、循環型の経済活動が持続的に展開できるような滞在・交流のコース開発などを実施できる体制づくりが重要な課題です。その母体となる「原村ファン倶楽部」の設立を目指していきます。

【お願い】

パンフレットやホームページに掲載する店舗や工房などについては落ちのこないよう、なるべく多くのみなさんを掲載できるよう心がけたのですが、情報不足から掲載されなかった方もいらっしゃるかと思います。どうか、遠慮なく左の「問い合わせ先」までご連絡ください。

問い合わせ先 村づくり戦略推進室企画係 ☎ 79-79002